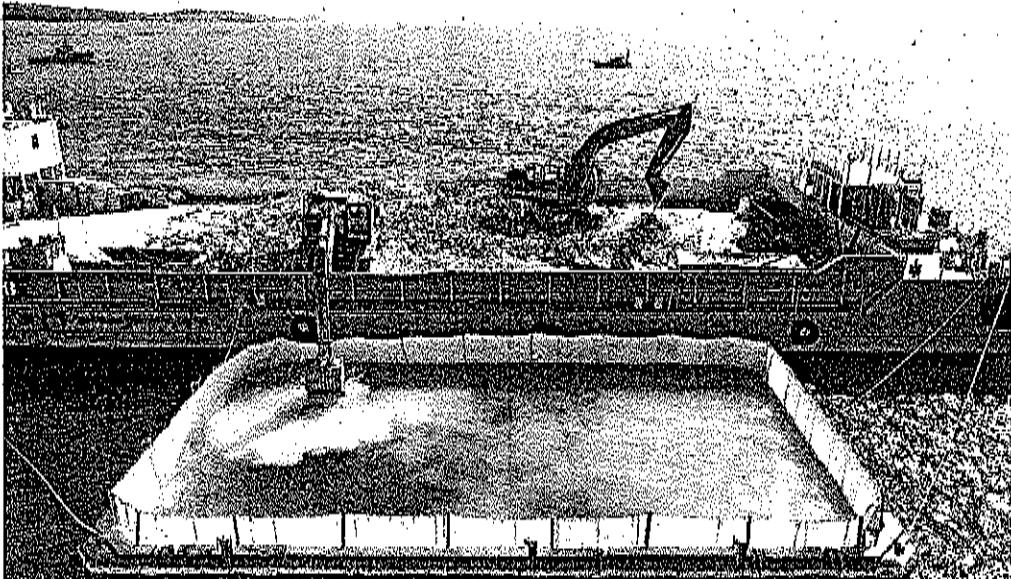


2/10 五、被

希望の海



大浦灣着工 1 月 百材次々投入

卷之三

沖縄新基地 本紙が空撮

元成見遺世古

新規地盤開拓する地域
保全樹種は、石材の投入に
あたって「端材を棄棄」と
して、わり、木質繊維防砂板を
先ず25回の記者会見で「石
材は保石場へ送致したもの
を想用」としてから述べて
いますが、異なりとも確
認は行われていません。

辺野古・大浦湾着工1カ月

米軍キャンプ・シュワブ
ゲート前で抗議の座り込みを行なう市民ら=2日、
沖縄県名護市辺野古



沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐり、防衛省沖縄防衛局が大浦湾側の工事を着手を强行してから10日で1カ月がたります。極めて多様性が高い世界的に貴重な生態系を有する「希望の海」大浦湾の生き物たちの「生き埋め」が進んでいます。

西平伸司長は、「生き埋め」が進んでいます。この西平伸司長は、大浦湾の貴重さを「政府の発表していくながら、米軍基地を優先している」と批判します。

反対は当たり前

西平さんは2003年ごろ、仲間とダイビングチーム「すなづくスナフキン」を結成。大浦湾の生態系を撮影し、魅力を発信してきました。

海上ヤード建設現場は、

「大浦湾の中で多様性を一番感じられる安全で楽しい場所

辺野古新基地建設をめぐる訴訟3件が係

環境を壊す工事

辺野古の米軍キャンプ・シ

コウゲート前では連日、抗議の座り込みが行われています。名護市在住の中村潔子さ

さんは、「この自然を見ればつぶす」というのはあり得ない。知事や県民は当たり前の反対をしている。政府はそれを受け止め切れていないし司法も加担した」と批判します。

新基地建設をめぐる辺野古・大浦湾住民らと国の訴訟（係争中）

提訴日	抗告訴訟		「代執行」関連
	請求内容	状況	
2022年8月23日	沖縄防衛局の設計変更が不承認となり、裁判所が取り消すことを求める	沖縄県の申請が認められ、裁判所が取り消すことを求める	24年2月22日(予定)
19年1月29日	沖縄県の申請が承認され、裁判所が取り消すことを求める	沖縄県の申請が承認され、裁判所が取り消すことを求める	国による「代執行」の取消しを求める

貴重な生態系「生き埋め」

大浦湾は、防衛省の環境影響評価で「5000種4種もの生物が海域から記録され、それが262種もの絶滅危惧種には含まれています。今回着手がなされた海上ヤード建設現場に大なトウカムリ貝がたくさんいて、クラゲムシ、ハート貝も数多くみられていたといいます。

の西平伸司長は、大浦湾の貴重さを「政府の発表していくながら、米軍基地を優先している」と批判します。

船やボート、カヌーで連日、海上抗議・監視活動を繰り広げている「くり島反対協議会」共同代表の中村聰幸さん

さんは、「この自然を見ればつぶす」というのはあり得ない。知事や県民は当たり前の反対をしている。政府はそれを受け止め切れていないし司法も加担した」と批判します。

辺野古・大浦湾周辺住民の人が提起した訴訟も2件がある。辺野古新基地建設「代執行」による新基地建設の設計変更「承認」の取り消しを求める新たな訴訟が提起される予定(表)です。

辺野古の米軍キャンプ・シコウゲート前では連日、抗議の座り込みが行われています。名護市在住の中村潔子さんは、「ジユゴンのすめる海を取り戻したい。サンゴ移植は無意味。環境を壊す工事は世界に対して責任を果たしていない」と憤ります。県外からの駆け付けた北村雄さんは、「あきらめたら終わりだ。これからも(抗議)を続ける。沖縄だけの問題にしてはいけないと力を込めた。